



# 共主体の保育環境ってなんだろう？

EVERYONE WILL BE HAPPY



こども主体という言葉をよく耳にしますが、

こどもにだけに主体はあるのでしょうか？

正解はこどもにも主体はあるし、

当然、先生や大人にも主体はあります。

ただし、こどもと大人に平等な主体が

あったのかと問われると、

今までの幼児教育・保育は大人の主体が

少し強めだったように思えます。

誰一人取り残さない、持続可能な社会を創るために、

こどもと大人が対等に主体を発揮できる

共主体の教育・保育環境が注目を集めています。

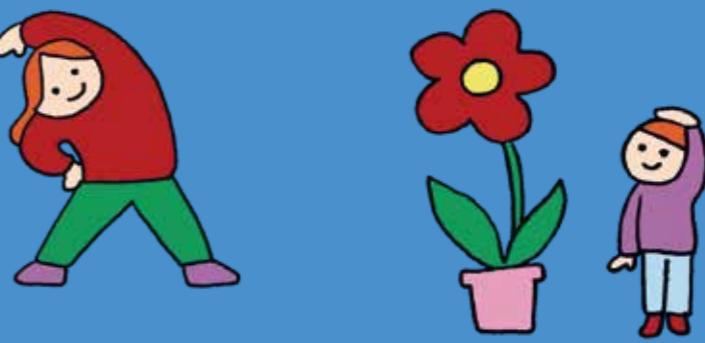
こどもはもちろん、先生や大人も幸せになる

共主体の保育環境を覗いてみませんか？

まずは自園の環境のチェックから始めましょう。

あなたの園の

# 保育環境をチェック!



## 1 人的、時間的環境

- 子どもの興味関心や育ちについて先生同士で語り合う時間がある
- 行事のあり方を毎年見直している
- 子どもたちの声を聞く時間を大切にしている（サークルタイム等）
- ドキュメンテーション等で日常の保育を可視化、共有している
- 先生の休憩時間や、ノンコンタクトタイムは確保されている



子どもの主体性を育む環境は整っていますか？  
このチェックリストでは、15の質問を通して、  
今この園の環境を振り返るお手伝いをします。  
あなたの園の保育環境を再確認してみましょう。  
一つひとつチェックしながら、



## 2 屋内環境



- 室内に子どもの興味関心を引きだす工夫をしている
- 室内に季節を感じる要素を取り入れている（季節の草花など）
- 室内環境を子どもの姿に応じて変化させている
- 子どもの自由な遊びを継続できるような工夫をしている
- 支援が必要な子どもや集団から離れて過ごしたい子のために、心を静める場所がある



## 3 屋外環境



- 築山や岩場等の地形に起伏や変化のある環境がある
- 草地やビオトープ等の自然と身近に触れ合える環境がある
- 泥場やアトリエ等の創造的な遊びができる環境がある
- 隠れ家やデッキ等の身を隠したり、ひと休みのできる環境がある
- 日常的に園外の施設や公園等の地域を活用した保育・教育をしている

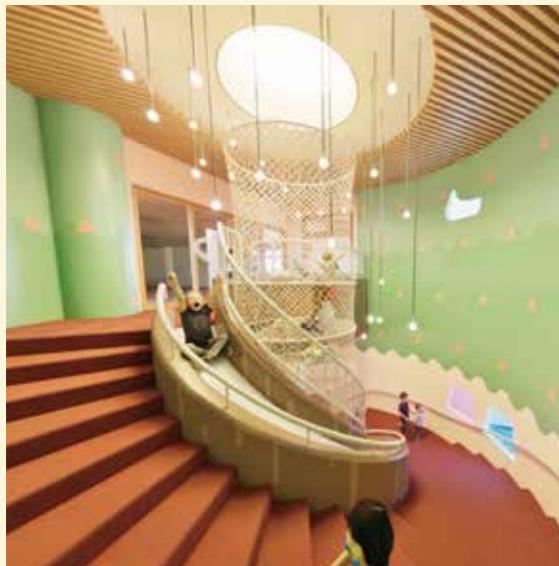
GREAT! 12点以上 ぴかぴか園 すばらしいです！ぜひ見学をさせてください！

FIGHT 5-11点以上 もうちょい園 少しの変化でもっと輝きます！

LET'S GO! 0-4点以上 まだまだ園 のびしろの宝庫の園です！



環境整備に取り組んだ園については、次のページをご覧ください。



慶和幼稚園 理事長 伊東 慶 先生

## 「暮らす場」となる環境づくり

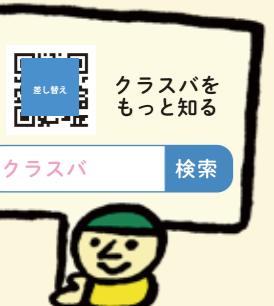
今年100周年を迎えた歴史と伝統のある慶和幼稚園。理事長の伊東先生は若くして祖父から理事長のバトンを受け取り、地域や保護者のニーズを反映し、預かり保育の延長、小規模保育園、企業主導型保育園の開所、そして主体性保育への切り替えにも取り組んできました。

そして何よりも先生たちが1人の社会人として誇りを持って長く働く環境づくりに力を入れています。園の歴史と伝統を守りながら現代に合った園の姿に変えていくなかで、園舎そのものの在り方にも変化をもたらしたいと思うようになりました。先生たちが実現したい保育や現在の園に必要な要素を取り入れた環境を作ることが大切だと思い、クラスバで改修を行なうことに決めました。「時代の流れとともに園の形態が変わってきた。共働き家庭の増加

に伴い、園で過ごす子どもの時間も長時間になっていて。そんな中でより子どもや先生が安心して過ごせる園を目指したい。」と伊東先生は話してくれました。現場の先生たちとのワークショップでは「もう少し屋内で遊び込める環境が園内にあるとよい」といった意見や、「支援が必要な子が心を落ちつかせられる環境がほしい」といった意見が出てきました。そのような中で保育室の中に遊びの連続性を守ることが出来るロフトや、発達支援が必要な子が心を落ちつかせるセンサリールームなどをご提案し、来年度に改修工事を着工予定です。スマートエデュケーションのクラスバでは、先生方の話や想いにしっかりと耳を傾け、その想いを形にしたいと考えています。そして、すべての子どもや先生が安心して、落ち着ける「暮らす場」となるように環境づくりをしていきます。

クラスバは、環境づくりに関する研修やワークショップを行いながら先生の1人1人のアイデアを取り入れ、子どもや先生の居心地のよい「暮らす場」になるように提案、施工を実施します。

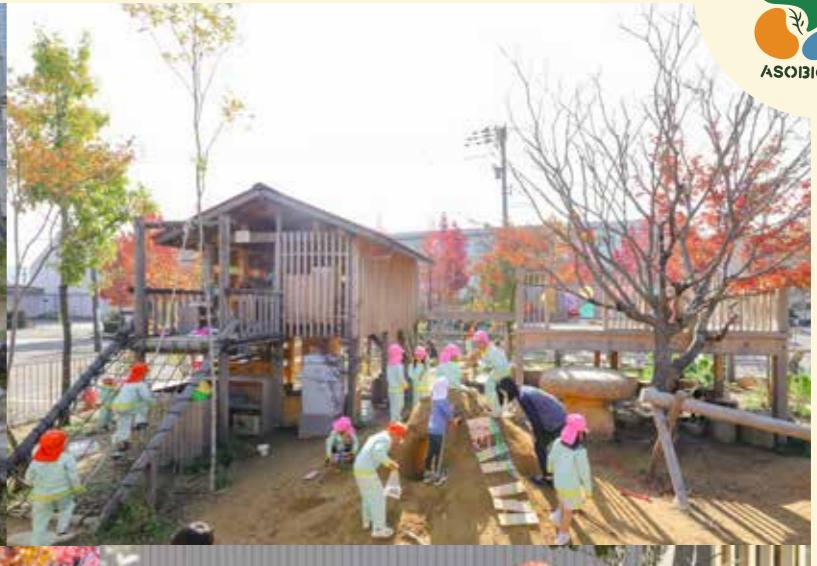
屋内環境・リフォーム事業  
「クラスバ」ディレクター  
久保 祥太郎



クラスバ

もっと知る

検索



園長 中戸 華恵 先生

## 見直しから一歩踏み出す！保育環境改善の取り組み

に環境整備に取り組み、より魅力的な  
改善した事例をご紹介します。

## 「子ども・保育者・保護者・地域の人 みんなでつくる園庭」

めぐみこども園は、福井県福井市にある定員175名の認定こども園です。子ども主体の保育に向けて舵を切る中で保育内容はもちろん、木育ルームや地域の方も利用できる図書館など、施設のアップデートにも力を入れています。常に子どもたちをまんなかに考え、地域とのつながりも大切にしています。

屋内環境がどんどん充実していく中で、園庭環境も子ども主体、先生主体の環境にできないか、検討が始まりました。先生たちがどのような環境で保育をしたいのか、子どもに最も近い存在である先生自身がデザインすることが大切だと考え、ASOBIOでプロジェクトを進めるようになりました。

プロジェクトを進める中で、印象的な場面がいくつありました。先生たちが楽しんで前向きに取り組んでいることは伝わってきましたが、設計が進み現実味を帯びてくると、徐々に不安が生まれてきていることも伝わってくるようになりました。特に、先生たちの声

をもとにプランされた石垣や池については、「低年齢児には危険ではないか」「池に落ちたらどうしよう」という素直な声もあがりました。しかし、研修や園内でも話し合いを重ねた結果、子どもたちの遊びが豊かになることを最優先に「まずはやってみよう!」という結論になりました。

また、先生が園庭環境を考えるというコンセプトにとらわれず、実際に園庭で遊ぶ子どもたちにも「どんな園庭がよいのか? どんなあそびがしたいのか?」を問いかけ、アイデアをもらっていました。ASOBIO完成後は、土日や休日に地域の方にも園庭を開放しています。園庭を園のための施設ではなく、地域のための施設にする考えには感銘を受けました。地域の子どもたちの「やってみたい!」を実現するために、チャレンジを続けるめぐみこども園さんのパートナーとして、私も一緒に進化していくのが楽しみです。



屋内環境・リフォーム事業  
「ASOBIO」ディレクター  
長沢 秀平

ASOBIOは、子どもたちが園庭で遊びながら自然の不思議さや魅力に触れる空間を提供します。園庭環境の研修から設計、施工まで一貫してトータルにサポートします。



アソビオを  
もっと知る

アソビオ

検索





## 園庭で小さな命と出会い、

その尊さを知る。



当園の園庭には今、50種類以上の植物が植えられています。決して広くはない園庭ですが、園庭に自然が増えたことで豊かな遊びがたくさん生まれる空間になりました。  
以前から園庭に花壇を置いていましたが、触れて遊ぶというよりは鑑賞するためのものでした。今は子どもたちがより自然と一緒に遊んでいます。虫や鳥などいろいろな生き物も訪れるようになり、子どもたちは小さな命をとても身近に感じているようです。  
「この虫はなんだろう?」「触ってもいいの?」など、子ども同士また子どもと先生との間で、命を真ん中にたくさんのコミュニケーションが生まれ、虫が苦手な子が「ちょっと触つてみる!」とチャレンジする姿も見られるようになりました。日頃から命の尊さについて子どもたちと一緒に考えることを大切にしていますが、多種多様な命に触れながら遊ぶことで、命を大切にする気持ちが、より一層自分の実感を伴って育ついるように感じています。先日、子どもたちと一緒に「虫宿」を作りました。「虫宿」は虫たちの居場所であり、冬越しするための住処です。日本では見たことがなかったのですが、ドイツに視察に行った際にどの園の園庭でも目にし、「これは是非作ってみたい!」と思い、導入しました。どんな虫が訪れるのか、みんなで楽しみにしているところです。

園庭には築山や土管や草スキー場など子どもが自然と身体を動かして遊べるような仕掛けも用意しています。登ったり、降りたり、滑ったり。暑い日には土管の中や木陰で涼んだり。子どもたちは五感を働かせ、身体をたくさん使って遊んでいます。それぞれ自分が居心地良くられる場所ができたことで、集団行動が難しかった子どもたちも遊びに参加するようになります。真っ平な園庭に比べたら怪我のリスクもあります。当初は職員にも大丈夫かなと心配する気持ちがあったと思いますが、子どもたちにはちゃんと危険を回避する力が備わっています。遊びの様子を振り返りながら環境を整えることも大切にしているので、大きな怪我はありません。

当園は70周年記念事業の一環として園庭を作りました。職員みんなで園庭を作り

ぶというよりは鑑賞するためのものでした。今は子どもたちがより自然と一緒に遊んでいます。虫や鳥などいろいろな生き物も訪れるようになり、子どもたちは小さな命をとても身近に感じているようです。  
「この虫はなんだろう?」「触ってもいいの?」など、子ども同士また子どもと先生との間で、命を真ん中に自然のなかで遊びたいという意見が多数! 私自身もたちが新しい一面を知るきっかけにもなりました。自分たちの理想が詰まった園庭は愛着もひとしお。「私が管理したい!」と手を挙げてくれる先生もいて、今、ASOBIO担当大臣として活躍してくれています。

造園の施工は熊本県阿蘇の古閑舎さんにお願いしました。古閑舎さんは起伏に富んだ広大な雑木林で木を育てています。多くの造園業者が平面の畑に1列に木を植えて、形を整えているなか、古閑舎さんの木は自然な地形で育っています。一本一本の木がとても個性的で、生命力にあふれていて、子どもたちの姿とシンクロする部分がありましたし、命が育つうえで環境がいかに大切かということも改めて感じました。園庭を作るプロセスでは3Dの完成予想図を見ながら、「この木がここにあつたら、きっと素敵だな」と子どもたちの姿に思いを巡らせながら木を選びました。どの木にも思い入れがあります。園庭の限られたスペースにとても素敵に植えていただき、そのセンスと技術にも感動しました。

園庭は地域の人も見ることができる園の顔、どのような思いを持って保育をしているのか、園庭から伝わるものもあるはずです。実際に、園庭を変えてから興味を持つてくださる保護者や見学者がとても増えました。ただ園庭は作つて終わりではありません。今の私たちの園庭は「未完成の完成」。変わり続けるプロセスにこそ保育の喜びがあると思います。植物はどんどん育ち、園庭はこれからも形を変えていくでしょう。私たちも理想とする保育の形を模索しながら、園庭とともに進化し続けたいと思っています。



文: 笠 信純  
社会福祉法人法林会  
りんでん保育園  
園長

ほかにも  
施工事例を  
ご覧いただけます



ASOBIOでは現場の先生たちの話や想いを聞く。ここを大切にしています。りんでん保育園さんでは、研修中の園長先生、主任先生と現場の先生たちとの話し合いの雰囲気がとても良いことが印象的でした。私自身は、先生方から沢山アイデアが出てくるような関係作りの重要性を改めて再認識できる機会になりました。

ナビゲーター  
まんどうろ まさき  
政所 将之

